

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	哺乳類卵胞の選択的死滅制御機構とその人為支配による潜在的卵巣卵の利用	研究代表者名	眞鍋 昇
-------	------------------------------------	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ () 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ (×) 達成していない

意見：
雌雄生殖細胞の品質評価法がある程度完成した点は評価したい。しかしながら、細胞の選択死滅の分子機構において PFG-5、PFG-6 の成果は未発表であった。こうした不備は随所にみられる。最後まで本来の研究目的の達成を目指し、論文として公表すべきであった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ (×) 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
研究代表者はもっと責任を持って真理に迫る研究を推進すべきであった。分担者はそれなりに研究成果を発表しているが、関連分野への大きな貢献とは言えない。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ (×) 高く評価できない

意見：
研究成果と発表論文の関係が不明確であり、研究にトピックスがない。一部の内容には一般性があり、多くの研究者が購読する雑誌への発表があっても良かったのではないだろうか。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ (×) 高く評価できない

意見：
主要な成果の一つとして述べられた PFG-5、PFG-6 に関する論文が未発表であることに現れているように、本研究プロジェクトに関する重要な成果であるなら、いかなる理由があろうとも責任をもって公表すべきであった。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
×	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

当初の研究目的が不明瞭になったり、研究終了報告書で主要な成果の一つとして述べられている PFG-5、PFG-6 の遺伝子構造について、その成果の発表がなかったり、またその他にもこのような不備が多々見受けられた。特に PFG-5 と PFG-6 の論文に関しては、当該研究がはじまって間もなくの成果にも拘らず、未だに論文として公表されていないのは理解に苦しむ。また、発表された論文に関しても一般読者が読む雑誌にほとんど発表されていないのは残念である。

途中で研究機関を異動しても、成果を論文として仕上げることは責務であり、それに基づき報告書を書くのは研究者として当然のことである。PFG に関しても分担者の協力を得ればさほど難しいことではなかったと思われる。少なくとも PFG に関する論文は早急に公表することが必要である。